
クリスマスの思い出

スイッチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマス思い出

【コード】

N9700I

【作者名】

スイッチ

【あらすじ】

冬になる度思い出す、あの日のこと

冬になる度思い出すのは、あの時の興奮。

あの、夜でも目立つ派手な真っ赤な背中は今でも忘れられない。
真っ白い豊かな髭は、開いたカーテンから入る月明りできらきら
光っていた。

手袋をつけた手には大きく膨らんだ袋。もう一方の手には大きな
テレビ。

僕が驚きで目を覚まし飛び起きると、真っ赤な誰かも目を見開い
て僕を凝視した。

彼は袋を床に下ろした後、あいた手の人差し指を立てて口元にや
った。

静かに。

真っ赤な誰かはウインクを一つした後再び袋を持ち上げた。そっ
と窓に向かう彼に、僕は大きな声を出した。

慌てて窓から飛び出した彼をパジャマ姿で追いかけたけれど、彼
の足はとても早かった。

あっという間に見えなくなって、残ったのは僕一人。

追いつけなかったのが悔しくて、捕まえられなかったのが悔しく
て、家に帰った僕は、大声で起きてきた両親に抱き付いて泣いた。

だから僕は待っている。

またいつか彼が現れるときを。

*

「ねえ、一体どうしたのあいつ。一心不乱にバット振り回してるけど」

「何年前にサンタの格好をした奴にテレビを盗まれたんだと」「なにそれ、ジョーク？」

今年の冬も、風を切るフルスウィングの音が木霊している。

(後書き)

たまには季節ものを書いてみようかと。

ベタな気もするけど楽しんでくれたら何よりです^^

ちなみに裏タイトルは『クリスマス・フルスウィング』だったり。

皆様に良いクリスマスを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9700i/>

クリスマスの思い出

2011年1月9日06時11分発行